

株主通信 Vol.7

ゆうちょ銀行 VISION

2019年3月期 (2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日)



JP
BANK ゆうちょ銀行

証券コード：7182

経営理念

お客様の声を明日への羅針盤とする
「最も身近で信頼される銀行」を目指します。

信頼

法令等を遵守し、お客さまを始め、
市場、株主、社員との信頼、社会への貢献を大切にします

変革

お客様の声・環境の変化に応じ、
経営・業務の変革に真摯に取り組んでいきます

効率

お客さま志向の商品・サービスを追求し、
スピードと効率性の向上に努めます

専門性

お客様の期待に応えるサービスを目指し、
不断に専門性の向上を図ります

CONTENTS

- P 3 トップメッセージ
- P 5 ゆうちょ銀行 TOPICS
- P 7 特集
- P11 決算ハイライト
- P13 株主スクエア／株主メモ
- P14 会社・株式情報
- 裏表紙 配当について

ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
当行の今後の取り組みなどについてご説明させていただきます。

株式会社ゆうちょ銀行
取締役兼代表執行役社長

池田 素人



トップメッセージ

2018年度の業績と取り組み

当行は、2018年度から2020年度を計画期間とする中期経営計画で掲げた目指す姿の実現に向けて、「お客さま本位の良質な金融サービスの提供」「運用の高度化・多様化」「地域への資金の循環等」「経営管理態勢の強化」の諸施策に取り組みました。

「お客さま本位の良質な金融サービスの提供」では、お客さまの資産形成へのニーズに応え、お役に立てるよう、郵便局ネットワークを活用した資産運用商品の販売体制をより強固にしました。また、決済サービスの充実として、他の金融機関との振込の即時入金時間を拡大しました。さらに、ATMネットワークについても、利便性の高い場所へのATMの配置・転換を継続しており、ファミリーマート店舗を中心とした小型ATMの設置を進めました。

「運用の高度化・多様化」においては、国内の低金利環境が継続する中、安定的な収益確保のため、適切なリスク管理のもと、国際

分散投資を進めました。リスク性資産への投資では、市場環境を踏まえつつ、外国証券投資やオルタナティブ投資^(※1)等を実行しました。また、2018年2月に株式会社かんぽ生命保険と共同出資により設立したJPインベストメント株式会社では、同年4月に「JPインベストメント1号投資事業有限責任組合」を組成し、投資を開始しました。

「地域への資金の循環等」では、お客さまからお預かりした大切な資金を地域に循環させていくために、地域金融機関との連携を通じて、2016年度から地域活性化ファンドへの参加を積極的に推し進めており、2018年度も新たに6件の地域活性化ファンドに参加しました。さらに、ATMネットワークの活用等による地域金融機関との連携強化にも取り組みました。

そして「経営管理態勢の強化」では、リスクガバナンスの強化やコンプライアンス態勢の強化・お客さま本位の業務運営、金融犯罪・反社会的勢力への対応強化、ダイバーシティ・マネジメントを含む人事戦略、コストマネジメント

の徹底・ITの有効活用、ESG（環境、社会、ガバナンス）に取り組んできました。

その結果2018年度の業績は、連結経常利益3,739億円、親会社株主に帰属する当期純利益2,661億円となり、期末配当は1株当たり25円、中間配当と合わせた年間の配当は1株当たり50円とさせていただきます。

2019年度の取り組み

「『やっぱり、ゆうちょ』と言われることを、もっと。」をスローガンに、全社一丸となって目指す姿の実現に向けて各種施策に取り組みます。

郵便局ネットワークを通じて、全国の幅広いお客さま、小さなお子様からご高齢の方まで、お一人おひとりの人生をしっかりとサポートし、共に歩んで行くことで、ゆうちょ銀行としてのブランドを構築していきます。

そして、Fintech（金融とITの融合）に代表される新たなテクノロジーの活用や、よりお客さまにご相談いただけるような全国のネットワークの高度化・充実を通じて、お客さまに対して「新しいべんり」と「安心」を提供いたします。例えば、2019年5月から開始したスマートフォン決済「ゆうちょPay」^(※2)等の利用促進を図るなど“いつでもどこでも使える”「新しいべんり」を提供していきます。

また、国内の低金利長期化により、運用を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあるものの、国際分散投資の推進による資本の有効活用、リスク性資産への投資拡大による収益性向上を通じて、安定的な収益の確保を目指します。



さらに、引き続き、地域金融機関との連携・協働により、地域経済の発展・成長に貢献するとともに、経営管理態勢を強化してまいります。

これらの取り組みを踏まえ、2019年度は連結経常利益3,750億円、親会社株主に帰属する当期純利益2,700億円と予想し、1株当たり配当予想は中間25円・期末25円の計50円、予想配当性向は69.4%といたしました。

株主の皆さまへ

厳しい経営環境の継続が見込まれる中ではございますが、今後も企業価値の向上と、安定的な株主還元の継続に努めてまいります。株主の皆さまには、今後ともご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※1 成長が見込まれる未上場企業等へ投資するプライベートエクイティファンド、不動産ファンド等

※2 10ページで詳しくご紹介しています。



2018年

4月

「JPインベストメント1号投資事業有限責任組合」の組成

2018年2月に設立したJPインベストメント株式会社が組成

5月

新たな中期経営計画(2018~2020)の公表

6月

定時株主総会をザ・プリンスパークタワー東京で開催



第12期 定時株主総会を開催

7月

統合報告書を初めて発行

ゆうちょ銀行の企業価値をより深くご理解いただくため、財務情報に加え、経営戦略やESG（環境、社会、ガバナンス）情報を充実させた「統合報告書」を初めて発行しました。



8月

あおぞら銀行店舗内への「ゆうちょ ATM」の設置

全国初 金融機関全店舗内への「ゆうちょ ATM」の設置



あおぞら銀行本店でのセレモニー

10月

他の金融機関との振込の即時入金時間拡大

全国銀行データ通信システム(全銀システム)の稼働時間が拡大(24時間365日稼働化)されることから、他の金融機関との振込の即時入金時間を拡大しました。



2019年

1月

コンビニ ATM「バンクタイム」を「ゆうちょ ATM」へ置き換え

2019年1月以降、一部のファミリーマートに設置されているコンビニATM「バンクタイム」が順次「ゆうちょ ATM」に生まれ変わっています。

「mijica(ミジカ)」の機能追加

「mijica」が「ゆうちょVisa デビットカード(プリペイド機能付き)」に!

「mijica」にデビットチャージ機能、タッチ決済機能等が付いて、よりお客さまのニーズに合わせたご利用が可能になりました。

2月

ゆうちょPay公式Twitter開始 &公式PRキャラクター「ペイレンジャー」誕生!

「ゆうちょPay」リリースに向けて公式Twitterを開始。さまざまな情報や楽しんでいただける“つぶやき”を実施。(2019.4末時点 フォロワー数 約65,000)併せて、5人のヒーロー+αの「ペイレンジャー」が誕生。ゆうちょPayのアイコンをモチーフにした特徴あるキャラクターがPRしていきます。



キャンペーンページURLぜひご応募ください!

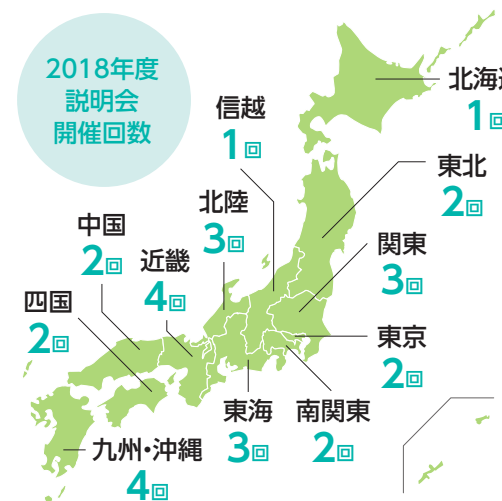
個人投資家向け説明会

全国各地で開催しています



池田社長

2018年度説明会開催回数



最近の説明会の資料等はゆうちょ銀行Webサイトからご覧いただけます。

<https://www.jp-bank.japanpost.jp/>

- トップページ
- 株主・投資家のみなさまへ
- 個人投資家のみなさまへ
- 個人投資家向け説明会



地域への 資金の循環等



ゆうちょ銀行
投資信託キャラクター
ますますくん

中期経営計画は、2018年度からの3年間で、厳しい経営環境の中、安定的な収益を確保しつつ、将来の持続的成長に向けて、経営基盤を固めるための期間と位置付けています。その取り組みの骨子は、「お客さま本位の良質な金融サービスの提供」、「資金運用の高度化・多様化」、「地域への資金の循環等」の3つを基軸としています。今回の特集では、その中の「地域への資金の循環等」を取り上げます。

地域活性化ファンドを通じた出資

地域活性化ファンドを通じて、地域金融機関と連携・協力し、地域の企業にエクイティ性資金を供給することにより、地域経済の発展・成長に貢献します。

こうした取り組みにより、中長期的に、地域の金融システムの安定化にも寄与します。→ P9をご覧ください



地域金融機関
との連携

地域金融機関との

良好な関係の構築
プラットフォーム
の開放

地域経済の発展・
成長への貢献

当行の
収益性向上

金融システム
の安定化

当行ATMネットワークの活用

あおぞら銀行での全店舗へのゆうちょATMの設置、京都銀行における同行店舗展開エリア内（京都府を除く）にあるゆうちょATMでの一部手数料無料化などによりATMコスト削減に貢献することで地域金融機関との連携も積極的に推進してまいります。

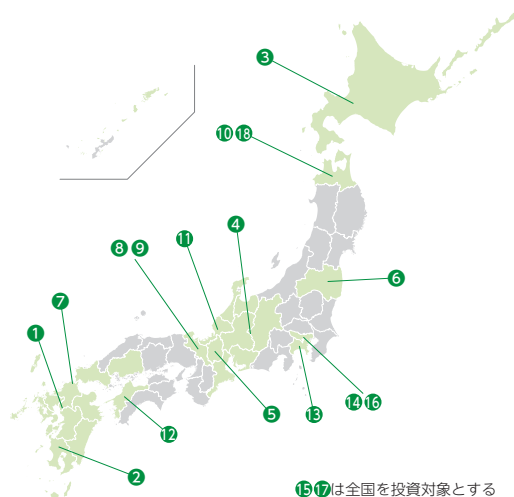


地域経済の発展・成長への貢献

お客さまからお預かりした大切な資金を地域に循環させていくために、地域金融機関と連携し、事業承継や起業・創業の支援等を目的とする地域活性化ファンドへの参加を積極的に推し進めています。

これまで以上に地域経済の発展・成長に貢献できるよう、さらに地域金融機関との協業関係を深めてまいります。

地域活性化ファンドへの出資状況 (2019年3月末現在)



ファンド名称	参加年月	ファンド総額
① 九州広域復興支援ファンド	2016/ 7	約117億円
② KFG地域企業応援ファンド	2016/11	25億円
③ 北海道成長企業応援ファンド	2016/11	2億円 ^{注1}
④ 中部・北陸地域活性化ファンド	2017/ 4	50億円以上 ^{注2}
⑤ しがぎん本業支援ファンド	2017/ 6	6億円
⑥ とうほう事業承継ファンド	2017/ 8	5億円
⑦ 九州せとうちポテンシャルバリューファンド	2017/10	23億円 ^{注1}
⑧ みやこ京大イノベーションファンド	2017/11	約20億円 ^{注1}
⑨ MBC Shisaku1号ファンド	2017/12	約20億円 ^{注2}
⑩ みちのく地域活性化ファンド	2018/ 3	5億円
⑪ ふくい未来企業支援ファンド	2018/ 3	約5億円 ^{注1}
⑫ えひめ地域活性化ファンド	2018/ 3	3億円
⑬ ヘルスケア・ニューフロンティアファンド	2018/ 8	12.5億円
⑭ とうきょう中小企業支援2号ファンド	2018/ 8	20億円
⑮ サクセッション1号ファンド	2018/10	30億円
⑯ TOKYO・リレーションシップ1号ファンド	2018/12	34億円 ^{注1}
⑰ 京大ベンチャー・NVCC2号ファンド	2019/ 3	54億円
⑱ あおぎん地域貢献ファンド	2019/ 3	約3億円

注1：設立日時 注2：最終目標総額

Webサイトのご案内

ゆうちょ銀行のWebサイトでは、財務情報やIR関連情報、株式関連情報、CSR活動への取り組み (ESG関連情報) などをわかりやすくお伝えしています。ぜひアクセスしてみてください!

<https://www.jp-bank.japanpost.jp/> [トップページ](#) ▶ [株主・投資家のみなさまへ](#)

財務情報

決算短信や有価証券報告書などをご覧いただけます。

IR関連情報

IRカレンダーや格付情報、IR関連のお問い合わせ (よくあるご質問) などをご覧いただけます。



IRニュース 最新のIR関連ニュースをご覧いただけます。

株式関連情報

株主還元方針や配当情報などをご覧いただけます。

個人投資家のみなさまへ

個人投資家向け説明会、CSR活動への取り組みなどをご覧いただけます。

📱 ゆうちょPay 2019年5月リリース!!

ゆうちょPayはあなたのスマホがおサイフがわりになる、ゆうちょの新しいスマホ決済アプリです。

スマホにアプリをインストールし、ゆうちょ口座の情報等を登録して準備完了!

お買い物など、様々な場面でご利用いただけます。



ゆうちょPayの
うれしい
4つの魅力

1 口座から即時引き落とし

ご利用代金はお客さまの登録口座から即時引き落とし

2 使いすぎの心配なし

ご利用は貯金残高の範囲内。ご利用上限金額を設定できるので、使いすぎの心配はありません

3 カンタン&スピーディ

おサイフいらずで、カンタン決済

4 広がるサービス

各種料金の請求書のお支払もゆうちょPayで。おトクなクーポンも配信予定

ご利用方法

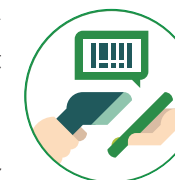
▶ カンタン申し込み!

- 1 アプリストアからスマホにアプリをダウンロード
- 2 アプリを開いて初期設定
総合口座・キャッシュカード暗証番号・ご利用可能なメールアドレスが必要です。



▶ すぐにご利用!

- 3 お支払いの際に「ゆうちょPay」を指定し、コードを読み取りまたは表示します。
- 4 お支払完了!
口座から即時に引き落とされ、ご利用の通知メールが届きます。



※ Apple、Appleのロゴ、iPhone、iPadは、米国もしくはその他の国や地域におけるApple Inc.の商標です。
App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。
※ Google PlayおよびGoogle Playロゴは、Google LLCの商標です。

決算ハイライト

決算の概要 (単体)

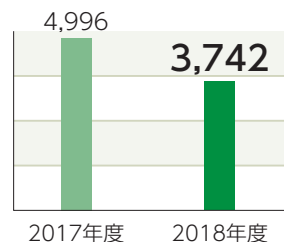
- ☑ 当期純利益は2,661億円となり、前年度比865億円の減益
- ☑ 2018年度の1株当たりの配当額は50円 (うち、中間配当は25円)
- ☑ 資産は国債等を中心に有価証券残高が減少、負債は貯金残高が安定的に推移

ポイント解説

Point 1

経常利益 (単体)

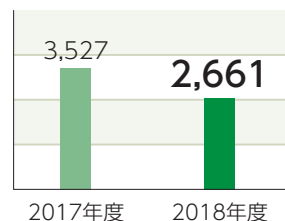
(単位: 億円)



Point 2

当期純利益 (単体)

(単位: 億円)



金利が低位で推移するなど厳しい経営環境下、経常利益は、前年度比1,253億円減少の3,742億円となりました。また、当期純利益は、前年度比865億円減益の2,661億円となりました。

損益の状況 (単体)

業務粗利益	
資金利益	
役務取引等利益	
その他業務利益	
うち外国為替売買損益	
うち国債等債券損益	
経費 (注)	
一般貸倒引当金繰入額	
業務純益	
臨時損益	
うち金銭の信託運用損益	

Point 1 経常利益

Point 2 当期純利益

注: 臨時処理分を除く。

財産の状況 (単体)

Point 3 資産	
うち有価証券	
うち貸出金	
負債	
うち貯金	
純資産	
株主資本	
評価・換算差額等	

(単位: 億円)

	2017年度	2018年度
業務粗利益	14,623	13,270
資金利益	11,756	10,161
役務取引等利益	964	1,067
その他業務利益	1,902	2,041
うち外国為替売買損益	1,949	2,194
うち国債等債券損益	△64	△122
経費 (注)	10,450	10,375
一般貸倒引当金繰入額	0	—
業務純益	4,173	2,894
臨時損益	823	848
うち金銭の信託運用損益	509	777
経常利益	4,996	3,742
当期純利益	3,527	2,661

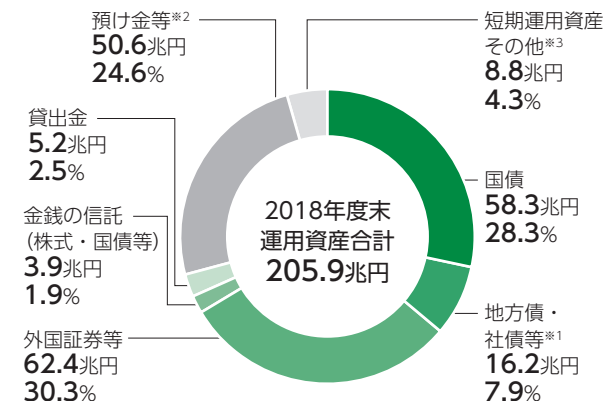
(単位: 億円)

	2017年度末	2018年度末
資産	2,106,306	2,089,704
うち有価証券	1,392,012	1,371,352
うち貸出金	61,455	52,974
負債	1,991,174	1,976,196
うち貯金	1,798,827	1,809,991
純資産	115,131	113,508
株主資本	88,945	89,730
評価・換算差額等	26,185	23,777

金額および比率は、表示単位未満を切り捨てて記載しています。

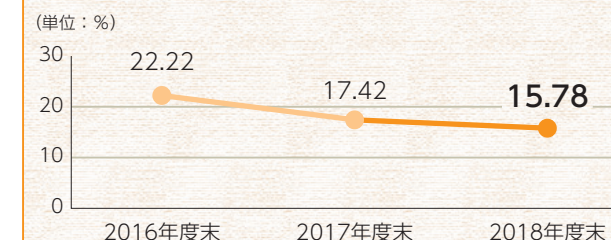
Point 3 運用資産 (単体)

資産のうち、運用資産の状況は次のとおりです。



^{*1}「地方債・社債等」は地方債、短期社債、社債、株式。
^{*2}「預け金等」は譲渡性預け金、日銀預け金、買入金銭債権。
^{*3}「短期運用資産・その他」はコールローン、買現先勘定、債券貸借取引支払保証金等。

単体自己資本比率 (国内基準) の推移



用語解説

自己資本比率

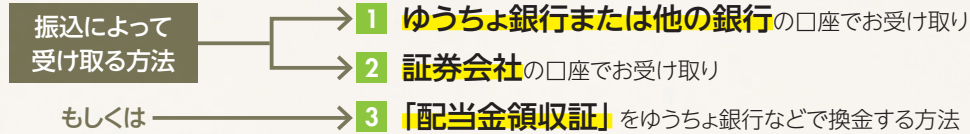
銀行が保有する資産などに対する自己資本の割合であり、金融機関の経営の健全性を示す指標のひとつです。当行のように海外営業拠点を有しない国内基準の対象となる銀行は4%以上の水準であることが求められています。

株主スクエア

Q&A このコーナーでは株主さまからよくいただく質問についてご紹介いたします。

Q ゆうちょ銀行の配当金の受け取り方法について教えてください。

A 配当金の受け取り方法には、次の3つがあります。



Q 配当金をゆうちょ銀行または他の銀行の口座への振込によって受け取るためには、どのような手続きが必要ですか。

A ゆうちょ銀行または他の銀行の口座への振込による配当金のお受け取りを希望される場合は、お取引のある証券会社等までお申し出ください。

Q ゆうちょ銀行の配当金領収証に記載された払渡しの期間が過ぎてしまった場合は、どうしたら良いですか。

A 払渡しの期間経過後のお取り扱いについては、株主名簿管理人である「三井住友信託銀行株式会社」の専用フリーダイヤルまでご連絡ください。
 なお、配当金は支払開始の日から起算して3年以内にお受け取りがない場合は、**当行定款の規定によりお支払ができなくなります**ので、お早めにお受け取りください。

※お手続きなどについてご不明な点がございましたら「株主メモ」に記載しておりますフリーダイヤルまでお問い合わせください。

株主メモ

証券コード	7182
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
1単元の株式数	100株
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	毎年3月31日及び中間配当を行うときは毎年9月30日
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載して行います。

主な手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> ● 配当金受領方法の指定のお手続き ● 住所・氏名変更等のお手続き ● 単元未満株式の買取・買増請求のお手続き ● 相続のお手続き 	口座を開設されている証券会社等
<ul style="list-style-type: none"> ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 各種証明書発行に関するお手続き ● その他株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-581-841 (フリーダイヤル) (受付時間 土・日・祝祭日を除く午前9時～午後5時)

会社・株式情報

■ 会社概要 (2019年3月31日現在)

名称	株式会社ゆうちょ銀行
設立年月日	2006年9月1日 ※2007年10月1日に「株式会社ゆうちょ」から「株式会社ゆうちょ銀行」に商号変更
本社所在地	〒100-8793 東京都千代田区大手町二丁目3番1号
資本金	35,000億円
従業員数	12,800名 ^注
主な事業所	本社、営業所234

(注) 従業員数は、当行から他社への出向者を含まず、他社から当行への出向者を含んでいます。また、臨時従業員(無期転換制度に基づく無期雇用転換者(アンシエイト社員)を含む。)は含んでいません。

■ 取締役 (2019年6月18日現在)

取締役兼代表執行役社長	いけ 池 だ のり と
取締役兼代表執行役副社長	た 田 なか すずむ
取締役	なが 長 と門 まさ つぐ
取締役	なか 中 ざと りょう いち
社外取締役	あり 有 た とも よし
社外取締役	の 野 はら き わ こ
社外取締役	まち 町 だ たつ 徹
社外取締役	あか 明 し のぶ こ
社外取締役	いけ 池 だ たつ あき
社外取締役	ちゅう 中 ぼち りょう し
社外取締役	たけ 竹 うち けい すけ
社外取締役	かい 海 わ まこと
社外取締役	あ い はら り き

■ 株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	18,000,000千株
発行済株式総数	3,749,475千株 (自己株式750,524千株 ^注 を除く。)
株主数	460,866名

(注) 自己株式には株式給付信託が保有する当行株式(683千株)を含めておりません。

■ 大株主の状況^注 (2019年3月31日現在)

株主名	持株総数(千株)	持株比率(%)
日本郵政株式会社	3,337,032	88.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	28,077	0.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,968	0.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	10,968	0.29
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	10,084	0.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	8,250	0.22
ゆうちょ銀行社員持株会	8,102	0.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	7,258	0.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	6,790	0.18
JP MORGAN CHASE BANK 385151	6,495	0.17

(注) 1. 当行は自己株式として750,524千株(発行済株式数に占める持株数の割合16.67%)を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。なお、自己株式には、株式給付信託が保有する当行株式(683千株)を含めておりません。
 2. 持株比率は、自己株式(750,524千株)を除いて算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

いつもここに。



配当について

2018年度1株当たり配当金

50円 (配当性向 (実績) **70.4%**)

2019年度予想1株当たり配当金

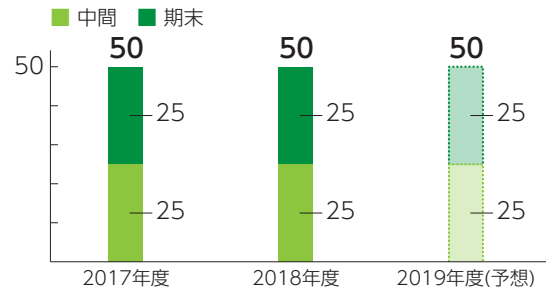
25円 + 25円 = 50円 (配当性向 (予想) **69.4%**)
■ 中間 ■ 期末 ■ 通期

株主還元方針 (2020年度末まで)

- 1株当たり配当金50円(年間)を確保
- 安定的な1株当たり配当を目指す
- 今後の規制動向、利益成長や内部留保の充実等の状況により、追加的な株主還元政策を実施することも検討

注：配当性向(予想)は、2019年度の予想1株当たり親会社株主に帰属する当期純利益金額と2019年度の普通株式に係る予想1株当たり配当額より算出

1株当たり配当金の推移 (単位：円)



株式会社 ゆうちょ銀行

〒100-8793 東京都千代田区大手町二丁目3番1号
大手町プレイスウエストタワー

